

2019年度 静岡福祉文化を考える会 活動計画（案）

活動テーマ：「福祉コミュニティの再構築と子どもを育む福祉文化を創る」

2019年度、24年目の活動に入る本会は、活動基調である「専門性と市民性を融合した活動」「広く地域課題を共有した地域総合型活動」「新たな地域課題解決に向けた活動」をもとに、情報の共有、広報啓発、人的交流、プロセスを重視し、人々が支え合って暮らし合う生活圏域における「地域課題」を掘り起こし、課題提起をする取り組みを、「生活会議」と置き換え、福祉文化実践活動に取り組む。

いま、希薄化・弱体化している「家庭・家族機能」を検証するとともに、地域を家庭化する「子どもを育む地域づくり」を福祉コミュニティの再構築として、「真の子どもの居場所」を議論し合い、「子供を取り巻く環境と福祉文化」を検証し、「静岡発 福祉文化の創造」（豊かに暮らせる身近な地域づくりを日々努力する）とは何かを地域における住民主体の「地域総合型学習」により論議する。

本会は、日本福祉文化学会が重要活動とする「現場セミナー」を静岡県にて開催し平成8年9月に誕生した。平成14年には、中部東海ブロック管内で「第13回日本福祉文化学会静岡大会」を開催してから17年ぶりに、再び、同ブロック近隣愛知県において学会東海大会が開催される。これを契機に、近隣地域との連携のもと、新たな時代を「地方発 福祉文化の時代」となるよう、広く県民に働きかけていく。

また、本会の取り組みを広く学会において実践報告し、真に「地方発 福祉文化の創造」を発信する努力をする。

1. 2019年度全体会（総会／公開型研修会）の開催

- 開催日時：平成31年5月18日（土）13:30～16:00
- 開催会場：静岡市清水区追分「寄ってつ亭」
- 研修テーマ：「子どもと福祉文化」を語ろう
- プログラム：
 - (1) 報告①「福祉文化実践活動の24年目の展開—子どもと福祉文化—」
 - (2) 報告②「子どもを育む地域づくりその意識と実態を検証する」
 - (3) 円卓トーク「今の地域と子どもたちを語り、これからを描く」

2. 委員会の開催

- (1) 実務型委員会構成を基に、[代表] [副代表] [事務局長・次長] [会計] [監事] [委員] [会員] が一丸となって、活動の進捗状況管理と検証に努める。
- (2) 「子どもと福祉文化」を主要活動テーマに、様々な地域実践活動から「地方発福祉文化の創造」を研究協議する。
 - 第197回 04月27日（土）13:30 静岡市清水区「寄ってつ亭」
 - 第198回 05月18日（土）10:30 静岡市清水区「寄ってつ亭」
 - 第199回 08月03日（土）10:30 静岡市清水区「寄ってつ亭」
 - 第200回 11月16日（土）10:30 静岡市清水区「寄ってつ亭」
 - 第201回 01月25日（土）13:30 静岡市清水区「寄ってつ亭」
 - 第202回 03月14日（土）10:30 静岡市清水区「寄ってつ亭」

3. 実践活動として、「若者発 ご近所福祉かるた」の積極的・有効的活用で「ご近所福祉」の検証

7年間の県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」から浮き彫りになった“ご近所福祉の再構築”を若者の視点から論議を深め、提言された読み札を精査し、「若者発“居場所”あり方研究会」の全面的な支援のもとに「かるた」の創作に取り組み、平成27年度に「若者発 ご近所福祉かるた」を100セット作成し5年目を迎えた。また平成28年度に作成した「若者発 ご近所福祉かるた 拡大版」2セットを有効活用して4年目。

幼児から大人まで、身近な地域の実践活動の場や行事の中で、「地域総合型学習」として楽しみながら活用し、子どもを育む安心して暮らし合う生活圏域づくりをめざす。

会員をはじめ、関係機関・団体・個人、各研究会会員、施設・グループ・サロン等に配布・設置した 100 セットの「かるた」の活用状況を把握し、「子どもを育む地域づくり」を検証し、地域社会に課題提起をしていく。

4. 「若者発“居場所”あり方研究会」への情報提供

本会から独立して常葉大学同好会として 4 年目を迎える。自主的活動に発展した「若者発“居場所”あり方研究会」には、機会を見て本会の活動（特に「子どもを地域で育む」）関連の情報提供に努める。

5. 現場視察研修

地域における子どもを対象とした実践活動地域を積極的に訪問検証し、これから地域社会づくりへの提言につなげる。

6. コミュニティ組織との連携

コミュニティ組織との連携に努め、「子どもを育む地域」について、住民主体の啓発学習の取り組みのプロセスや、子どもの居場所の取り組みの検証等広く地域住民の意見を把握することに努める。

7. 啓発学習活動

「生活圏域の地域での福祉文化論議（生活会議）」の取り組みを「公開型研修会」「公開型学習会」として開催する。

(1) 公開型学習会の開催

「定例委員会」（年 6 回）を「公開型学習会」と位置づけ、誰でも自由に参加できることを呼びかけ、市民・会員相互の情報交換の場及び日常的な実践活動につなげる。

(2) 公開型研修会の開催

できる限り、小地域の生活圏域で地域の課題解決に向けた話し合いの場を創り「生活圏域の地域での福祉文化論議（生活会議）」の取り組みとして、県民が参加できる「公開型研修会」を開催する。

- 第 1 回 5 月 18 日（土）13:30 静岡市清水区追分「寄ってつ亭」
研修テーマ：「子どもと福祉文化」を語ろう
プログラム：
 - ① 報告①「福祉文化実践活動の 24 年目の展開—子どもと福祉文化—」
 - ② 報告②「子どもを育む地域づくりその意識と実態を検証する」
 - ③ 円卓トーク「今の地域と子どもたちを語り、これからを描く」
- 第 2 回 8 月 3 日（土）13:30 静岡市清水区追分「寄ってつ亭」
研修テーマ：地域の子ども支援の実践に学ぶ
 - ① 基調報告「子ども支援」とは何か
 - ② 実践活動に学ぶ「地域の実践活動の現状」
 - ③ ワークショップ「子どもを取り巻く社会環境はいかにあるべきか」
- 第 3 回 3 月 14 日（土）13:30 静岡市清水区追分「寄ってつ亭」
研修テーマ：大人が変わる、地域が変わる、子どもが変わる ホツとする地域とは
 - ① 基調報告「子どもを取り巻く地域環境 その意識と実態」調査からの提言
 - ② グループワーク「みんながホツとする地域 そのネットワークとは」

(3) 「第 18 回静岡県福祉文化研究セミナー」の開催

- 日 時：11 月 16 日（土）13:30～16:30
- 会 場：静岡市清水区追分「寄ってつ亭」
- テーマ：『福祉文化と子ども』
 - ① 基調報告 その 1「福祉文化研究セミナー18 年を探る」
 - ② 基調報告 その 2「子どもを取り巻く地域環境 その意識と実態」を探る

③ ワークショップ「昔の子ども、今の子どもからの学び」

8. 調査研究活動

(1) テーマ『子どもを取り巻く地域環境 その意識と実態』調査の実施

① ねらい：

「静岡福祉文化を考える会」は、この 23 年間「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にした「調査研究活動」に取り組んでいます。また、その分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきました。

これまでの調査研究活動を振り返ると

- 平成 09 年度 ①「共働きに関する調査」
- 平成 10 年度 ②「私たちにとって、地域とは何かーその 1—意識と事態調査」
- 平成 11 年度 ③「私たちにとって、家族とは何か調査」
- 平成 12 年度 ④「父親に関する調査」
- 平成 13 年度 ⑤「ボランティア活動実践者意識調査」
- 平成 14 年度 ⑥「大人を対象とした生きがいと就労に関する意識調査」
- 平成 15 年度 ⑦「青少年の生きがいに関する調査」
- 平成 16 年度 ⑧「地域とは何かーその 2—意識と事態調査」
- 平成 17 年度 ⑨「子どもと社会環境に関する調査」(継続調査)
- 平成 18 年度 ⑩「子どもと社会環境に関する調査」(総括)
- 平成 19 年度 ⑪「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」
- 平成 20 年度 ⑫「長寿者の生きがい、その意識と実態に関する調査」
(静岡県共同募金会助成事業)
⑬「日常生活と福祉情報に関する意識調査」(静岡県委託事業)
- 平成 21 年度 ⑭「長寿社会に関する県民意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 平成 22 年度 ⑮「いまこそ地域社会に福祉文化を拓く 生活圏域における支え
合いとはなにか本音に迫る調査」(静岡県委託事業)
- 平成 23 年度 ⑯「地域と私の居場所その意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 平成 24 年度 ⑰「家族ってなに その意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 平成 25 年度 ⑱「長寿者とつながる ホッとするご近所づくりその意識と実態調査」
(静岡県委託事業)
- 平成 26 年度 ⑲「豊かに暮らせる地域づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 平成 27 年度 ⑳「若者の地域参加その意識と実態調査」
- 平成 28 年度 ㉑「ご近所福祉その意識と実態調査」
- 平成 29 年度 ㉒「居場所ってなに その意識と実態調査」
- 平成 30 年度 ㉓「子どもを育む地域づくりその意識と実態調査」

と、「23 のテーマ」の調査研究活動に取り組んできた。通算 24 回目となる今年度は、これまでの展開を継承しつつ、「家族・家庭」「学校と地域の連携」「地域の組織化」「ご近所のあり方」「専門性と市民性の融合」「ボランティア活動のあり方」等の項目をもとに、「子どもを取り巻く地域環境その意識と実態調査」に取り組む。

- ② 調査項目は、(1)基本属性、(2)家庭・家族の機能と地域社会、(3)地域の組織化と学校の関わり、(4)地域と家庭と学校の関わり、(5)地域ボランティア活動のあり方(6)望ましい地域環境、(7)提言（自由意見）の 7 項目とする。細部は「調査研究会」で具体化する。
- ③ 調査の展開：(1)調査実施期間（10 月～11 月）、(2)入力期間（10 月～12 月）、(3)分析・考
察（12 月～2 月）、(4)公表（3 月）を予定
- ④ 協 力 若者発“居場所”あり方研究会
- ⑤ 対 象 静岡県内の 10 代以上の県民対象（年代・世代・領域等を考慮）
- ⑥ 回収目標 約 200 名程度
- ⑦ 調査依頼／配布方法
会員（現在 20 名）、若者“居場所”あり方研究会、関係団体、企業

(2) 日本福祉文化学会東海大会における「地方発 福祉文化の創造 県民へのアクション 24 年のプロセス」(仮称) 実践報告

本会のこれまで 24 年間取り組んできた、「3 つの柱立て」を広く学会において実践報告し、真に「地方発 福祉文化の創造」を発信する。

(3) 学会及び近隣地域における『子どもを取り巻く地域環境』関連研究会との情報交換の実施

地域でいかにして子ども達を育まなければならないかを、広く情報交換の場をもち、ネットワークづくりに参加し、本会としての提言につなげる努力をする。

9. 広報・啓発活動

(1) 「機関紙発行計画」に基づき『OUR LIFE』の発行

- ① 年 6 回 A4 版 4 ページ構成 上質紙印刷 50 部発行
- ② 各号共通記事:「コラム」「事務局日誌拝見」「編集後記」
 - 第 122 号 (04/28) 『24 年目の新たな時代への挑戦』
 - 第 123 号 (09/25) 『福祉文化と子ども 学会・ブロック活動の動き』
 - 第 124 号 (12/25) 『第 30 回学会愛知大会報告 子どもの地域環境を考える』
 - 第 125 号 (03/15) 『24 年の道程を総括 近隣地域との連携』
- ③ 日本福祉文化学会東海大会開催に関連して、「福祉文化の創造」論議を会員及び関係方面に出来るだけ具体的に情報を発信していく。
- ④ 「学会ブロック通信」発行と連動し、学会 HP への紹介を依頼する。
- ⑤ 今年度取り組む「子どもと福祉文化」をテーマとした課題提起、地域・団体・グループとの連携の状況、各地区から寄せられた実践活動の取り組み等を紹介する。

(2) マスコミ、関連団体への情報提供

10. 関係・団体との連携

- (1) 「若者発 ご近所福祉かるた」及び「拡大かるた」設置団体等との日常的連携
(施設、NPO 法人、V グループ)
- (2) 「若者発“居場所”あり方研究会」への情報提供
- (3) あしたの日本を創る協会との連携
- (4) 日本福祉文化学会及び中部東海ブロック会員との情報交換
- (5) 関連大学・専門学校への情報提供
- (6) 静岡市ボランティア連絡協議会との連絡調整
- (7) ふじのくに未来財団との連携
- (8) 県内外の「子どもを地域で育む」関連研究会との情報交流の機会を持つ
- (9) 福祉コミュニティ組織における実践的取り組みをしている地域の把握と情報交換
- (10) 「焼津福祉文化共創研究会」との連携